

(様式第4号)

上田市 健康づくり推進協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田市健康づくり推進協議会
2 日 時	令和5年9月25日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会 場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出 席 者	宮下会長、滝沢(陽)副会長、今村委員、木島委員、関委員、滝沢(清)委員、 滝沢(詳)委員、竹内委員、田中(菜)委員、田中(由)委員、中村委員、野口委員、 渡邊委員
5 市側出席者	土屋市長、室賀健康こども未来部長、町田健康推進課長、井澤健幸政策担当係長、 戸谷保健予防担当係長、川口母子・精神保健担当係長、 片田母子・精神保健担当係長、宮島丸子地域健康支援担当係長、 滝澤真田地域健康支援担当係長、中沢武石地域健康支援担当係長、 小林主査、笹井主査、佐々木主任、中村管理栄養士
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍 聴 者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和5年9月29日

協 議 事 項 等
1 開 会 (事務局)
2 あいさつ (土屋市長)
3 委嘱書交付
4 自己紹介
5 正・副会長の選出 (会長：宮下委員、副会長：滝沢 (陽) 委員)
6 諮 問 (土屋市長から宮下会長へ)
7 協議事項 (1) 上田市健康づくり推進協議会の運営等について 事務局より上田市健康づくり推進協議会の任務、組織、任期、会議開催予定について説明 (2) 上田市民健康づくり計画について (ア) 第三次上田市民健康づくり計画の最終評価について 事務局より計画策定の趣旨、計画の位置づけ、分野の位置づけ、第三次計画最終評価のまとめに ついて概要を説明 ・以降、質疑 (委 員) 上田市健康づくり推進協議会では上田市民健康づくり計画のみの評価で、食育推進計画の評価 は行わないのか。 (事務局) 本日は上田市民健康づくり計画を説明し、食育推進計画は第3回目で説明を予定している。 (委 員) 大腸がん検診受診率・精密検査受診率が他の検診より低い傾向があるが理由はあるのか。 (事務局) 市では、人間ドックや職場の健診(検診)で大腸がん検診を受診している方が把握できていな いため、実際よりも低い受診率となっていると考えられる。

また、精密検査は通常、大腸内視鏡検査、又は注腸（バリウム）検査により行うが、身体への負担が大きく検査を躊躇する方が多いと思われる。さらに、医療機関によっては大腸 CT 検査等を行う場合があるが、この検査は「精密検査」として扱われないことも影響している。

（会 長）上田市独自に 6 分野を定めているのか。また、目標達成率等について、国や全国・他の自治体などと比較できるものはあるのか。

（事務局）国の健康づくりの方針である「健康日本 21」を踏まえ、上田市で独自に 6 分野を策定した。目標値は、国・県の指標と比較できるものや市独自で評価しているのが混在している。健診（検診）受診率等は国・県の平均と比較は可能である。

（委 員）今回の最終評価でオーラルフレイルの評価を行っていない理由はあるのか。

（事務局）オーラルフレイルについては、第三次計画の評価指標となっていないため、今回の評価に含まれていない。第四次計画には反映させていきたいと考えている。

（委 員）歯科の分野では健康寿命の延伸を考えると、オーラルフレイルの概念が非常に大事だと認識している。次期計画の中で取り組んでほしい。

（イ）第四次上田市民健康づくり計画について

事務局より計画策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間、市民の健康状況について（素案）、及び、第四次計画の基本的な考え方について概要を説明

・以降、質疑

（委 員）健康幸せプロジェクト事業の「ポイント制度」とはなにか。

（事務局）健康づくりチャレンジポイント制度のことである。健診（検診）やウォーキング等に参加するとポイントが獲得でき、貯めたポイントは温泉施設の利用券や農産物直売所での野菜購入補助券等と交換できる。このようなインセンティブ付与により、市民の方が主体的に健康に取り組んでいくことを目指すものである。

（委 員）計画の中で、感染症に対する施策を盛り込む必要があると考える。

（事務局）健康管理分野の中で検討していく予定である。

（会 長）「健康づくり」というと、中高年層に重きを置かれる印象がある。すべてのライフステージにおいて健康を意識し健やかに育っていく必要があるため、子供や若い世代から、健康を意識してもらう必要がある。

（委 員）市では大学生の健康診断のデータについて把握・共有しているのか。市内の学生に対する市の立ち位置や関係性はどのように捉えているか。

（事務局）大学生の健康状態の共有はできていない。連携の可能性をこれから考えていきたい。

（会 長）市内に住む大学生が、市で生活していきたいと思えるような環境づくりが必要と考える。

（委 員）食わず嫌い等こどもの食事に悩んでいる母親が多いと思う。食べる楽しさ、食育を経験する場が欲しい。外部の方とも連携できれば、子どもたちの健やかな健康にも繋がると考える。

（委 員）小学校では年に数回栄養士による食育指導を行っており、効果が得られている。同様の取り組みを保育園・幼稚園や中学校に広げられると良い。小学生では朝食を摂取する人は多いが、中学生では低下するため、対応が必要と考える。

（会 長）第 3 回目の健康づくり推進協議会の中で食育推進計画についても取り扱うため、力を入れて議論していきたい分野である。

- (委 員) 性教育について、早い段階から知識を伝えていけると良い。
- (委 員) 性教育に関しては、学校が学習指導要領に基づき、社会状況や世の中の関心も考慮に入れながら保健体育の授業の中で指導を行っている。
- (委 員) 子どもが外に出る機会が減っており、対策が必要と考える。また、メディアについての視点も対策が必要と考える。
- (委 員) 自治会役員が、住民の方に情報等を伝えていくことが難しくなっているため、市として何か取組があれば考えていただきたい。
- (会 長) 公民館等との連携など、市として何か取組があれば検討していただきたい。
- (委 員) 自治会での健康体操・ふれあい体操についても、自分たちで必要性を判断し、継続していく必要があると改めて感じた。自ら考えて行動することが大事と考える。
- (委 員) 骨粗鬆症などは研究が進み、若いうちからの対策が必要であることが分かってきている。なぜ大切なのか理由が分かると、自分の身体を作ることの大切さが自身で分かる。若いうちからの取り組みがなぜ必要なのか、伝える機会があると良い。
- (委 員) 運動実践の指導者として、特定の競技やスポーツに限らず幅広く身体を動かすことの必要性を感じている。身体を動かせる活動に貢献をしていきたいと考えており、市と連携して課題を解決していけると良い。
- (委 員) 若い人への周知が大切であると感じており、計画の中に周知方法を取り入れても良いと考える。
- (会 長) 同様の意見である。
- (委 員) コロナ前のように、保育園・幼稚園で親子で給食を食べることができる機会を再び設けるなど検討していただきたい。また、小さくても良いので近場に公園を作ったり、身体を動かせる遊具があったりすれば、身体を動かす機会になって良いと考える。
- (委 員) 自治会での健康教室などを地域内へ周知しても、参加者が少ないことが多い。コミュニティと繋がり、住民の多くの方が参加してくれる場が必要ではないかと考える。

8 その他

(事務局) 次回会議日程 10月23日(月)午後1時30分からとする。

9 閉会(事務局)